

事業報告書（令和3年度）

事業名 発達障害児（者）と社会をつなぐ音楽まつりプロジェクト

団体名 支援の必要な子と親の会たんぽぽの会 担当者名 後藤智子

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

【活動日時、場所、参加人数】

6月10日（木） 19:30～20:30 オンライン 3人
6月17日（木） 19:30～20:30 オンライン 3人
6月24日（木） 18:30～20:30 岡山市立東公民館 研修室 5人
7月8日（木） 19:00～20:30 岡山市立東公民館 研修室 5人
7月24日（土） 18:00～20:30 岡山市立東公民館 研修室 5人
7月31日（土） 18:30～20:30 岡山市立東公民館 研修室 12人
8月21日（土） 18:00～19:30 岡山市立東公民館 研修室 5人
9月25日（土） 16:00～19:00 岡山市立東公民館 研修室 8人
10月2日（土） 16:00～19:00 岡山市立東公民館 研修室 6人
10月16日（土） 18:00～20:30 岡山市立東公民館 研修室 9人
10月23日（土） 18:00～20:30 岡山市立東公民館 研修室 6人
10月30日（土） 18:00～20:30 岡山市立東公民館 研修室 8人
11月6日（土） 18:00～20:30 岡山市立東公民館 研修室 6人
11月13日（土） 18:00～20:00 岡山市立東公民館 研修室 10人
11月20日（土） 18:00～20:30 岡山市立東公民館 研修室 10人
11月23日（火祝） 9:00～16:00 宇野小学校体育館 体育館ライブ 41人
12月25日（土） 18:00～20:30 岡山市立東公民館 研修室 年忘れライブ
16人
1月8日（土） 18:00～20:30 岡山市立東公民館 研修室 8人
1月15日（土） 18:00～20:30 岡山市立東公民館 研修室 6人

【内容】

○練習活動（6月～2月）

コロナ禍で活動場所の公民館が使えなかったり、時間制限があったりして、オンラインや、活動時間を分散させての個別活動になりました。

メンバーそろっての活動はできませんが、自宅で練習したり、練習したものを動画にとってグループで共有したり、できることを考えて、つながりを切らずに活動しました。

東公民館での活動



○音楽まつり 宇野小学校での体育館ライブ (11月23日)

参加者:メンバー、スタッフ22人

お客さん19人

合計41人

少し寒くなりましたが、動くとき汗も出るぐらいの気候の中、体育館ライブを開催しました。音響は音楽スタジオトリノスさんにお願ひしました。

【準備】

○8:30 トリノス機材積み込み

○9:00 体育館機材搬入

○10:00 リハーサル開始、グラウンドへ出て音量チェック。近隣の方へご迷惑にならないように、調整。

○コミュニティハウスでヘアメイク。

【本番】

○録画、写真係はたんぼぼの会の会員(成人メンバー、高校生メンバー、保護者)で担当。

○子どもメンバーステージ 好きな曲、演奏したい楽器で発表。サポーターさんに入ってもらって気持ちよく演奏。

○大人コーナー いつもは子どものサポーターの立場ですが、ここでは主役で。

○成人メンバーステージ 曲からステージパフォーマンスまで自分で考えたものを発表。

(様式第8号)

○marcoさん飛び入りステージ

今年はお客さまで、と言われていましたが、来てくださるのだったら一緒にとお願いすると、快諾してくださいました。曲は「虹色バウンド」。メンバーも入っての演奏。

○紅蓮華とパプリカは全員で。

14:55 予定していたプログラムをすべて消化することができました。地域の方にもお声掛けをさせていただき、聴いていただくことができました。

最後片付けも、たくさんの機材がありましたがみなさんお手伝いしてくださり16時前には体育館の鍵を閉めることができました。

子どもステージ <https://youtu.be/jm-FIuyt6vE>

Marcoさんと <https://youtu.be/dhPd1UbA1aU>

みんなで <https://youtu.be/FhXj2GauY18>



○年忘れライブ (12月25日)

メンバー、スタッフ：14人

お客さん：2人

年忘れライブ🎵

今年リアルで開催ができました。

演奏したい曲をホワイトボードに書き込んで、時間切れになるまで順番に演奏していく方式。

たんぼぼ写真展に来てくださった方が写真を撮りに来てくださいました。

お客さんで来ていたメンバーも写真の撮り方を教えてもらって素敵な写真が撮れました。



2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

社会参加に困難さがある障害（主に発達障害、自閉症）を持つため、社会の接点の場を持つための活動。コロナ禍であったが、オンラインや個別活動に切り替え、休止せずに活動をつなげることで、社会との接点を保った。また、YouTube 配信することで、また広く社会とつながる体験活動を入れた。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

※事業内容が ESD にどう貢献したか等を記入してください。

施設の余暇時間に練習した報告や、福祉サービスを使ってカラオケに行つて練習した報告があった。発表に向けて努力する姿が見えた。またその練習の成果で、サポートなしで一人での発表へ自信をつけた。

制限はあったが、発表の場を地域へお知らせすることで、知ってもらふ機会となった。

4. 今後の課題と展望

子どもの成長とともに活動の場が変わっていく。自分で社会に出ていける子もいれば、成人になり活動の場が少なくなる障害の方もいる。つながってくる方のニーズに合わせて活動を考える必要がある。また、参加してきている子どもにも波がある。前に出て演奏するだけが活動ではなく、いろいろな役割を考え、活動に参加しやすくしていく。また SNS を使って活動を報告し、必要な方につながっていけたらと考える。